

美濃桃山陶の聖地 お茶体験で育む可児の誇り



茶道連盟講師の指導により、真剣にお茶を点てる生徒たち

歴

史や茶碗のことも面白いなと思うことができました。
また、茶碗は可児市の伝統文化だということ詳しく説明してもらって、可児市の文化に関心を持つことができたのでよかったです。
私はこの授業を通して、可児市についていいなと改めて思うことができました。
(広陵中1年女子)

お茶講習会とは

皆さんが子どものころの授業で心に残っていることは、どんなことでしょうか。「いつもと違う体験」ではないでしょうか。

右の感想のように、郷土に愛着や誇りを持つ心を育むことを目的に、茶道連盟の協力を得て、市内の小学生を対象にお茶講習会を推進しています。

市が企画したこの講習会は、お菓子をしていただいたり、お抹茶をいただいたりしていつもと違う体験をしながら、織田信長や豊臣秀吉と茶の湯の関わり、可児市と美濃桃山陶とのつながりなどを学びます。このような体験を通した総合的な学びにより、可児市の魅力である「美濃桃山陶の聖地」への興味・関心を高めるプログラムとしています。

美濃桃山陶の聖地とは

陶磁史上最も華やいた時期といわれる安土桃山時代に、美濃地方で焼かれた黄瀬戸・瀬戸黒・志野・織部などを総称し、「美濃桃山陶」といいます。日本国内で作られた茶碗の国宝は2つしかなく、そのうちの1つが、久々利大萱の牟田洞窯で焼かれたといわれる志野茶碗銘「卯花塙」です。「卯花塙」は、自由闊達な当時の時代性を伝える代表として、茶の湯という枠を超え、日本美術の代表作として認められています。



豊蔵が再現した大窯(久々利大萱牟田洞古窯跡)

お茶講習会の実践例

広陵中学校では、総合的な学習の時間で、ふるさと可児をテーマとして、茶道と可児市の伝統文化を学ぶ活動を行いました。

- 日程**
- 10/14 お茶の作法・道具の名前
 - 10/28 お茶の伝来・茶の心
 - 11/20 信長、秀吉、利休のお茶
 - 11/25 織部と利休
 - 12/9 荒川豊蔵と可児の焼き物
 - 1/20 茶会「おもてなしの心」
- 場所** 武道場

※12月9日には、荒川豊蔵資料館の見学も実施。



- ① 荒川豊蔵が制作した瀬戸黒の説明をする学芸員
- ② お茶講習会の趣旨を説明する校長
- ③ お辞儀を習う生徒
- ④ お茶碗の種類の説明を熱心に聴く生徒

お茶講習会の資料



朝読書で資料を読む生徒

市は、お茶講習会で盛り込む美濃桃山陶に関することや歴史的な背景を、エピソードを交えて資料としてまとめました。お茶講習会を実施する学校に配付し、美濃桃山陶の聖地の理解に役立てています。

美濃桃山陶の聖地 「お茶講習会 資料」



発行：可児市・可児市教育委員会